

平成28年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 大村市上下水道局	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道施設課 樋口 裕子 TEL:0957-54-3110, FAX:0957-49-5220 jousuikanri-c@city.omura.lg.jp
代表者氏名 大村市上下水道事業管理者 朝長 定	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】

部門名 行政広報部門	事例名 下水処理水による稲作試験 (下水道資源利用のミニPR)
---------------	------------------------------------

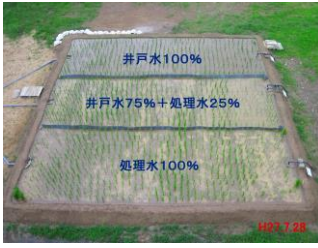
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)

大村浄水管理センターでは、処理水の1割を場内設備や近隣公園のせせらぎ用水や環境センターの場内用水へ送水しているほか、植樹帯工事や建設工事現場の用水として再利用している。農業用としては、干ばつ少雨時にミカン畑に緊急対応的に使用した。

流総計画による処理場の「高度処理化」を着手するにあたり、処理水の農業用水としての利用可能性を検討するため、簡易的な用水設備と試験圃場を作り、処理水の使用割合を変えて稲作試験を4か月間行い、生育状況などを比較調査した。

収穫した米に含まれる成分や品質等を検査し、上下水道局職員による「食味官能テスト」も実施したところ、米の味には大差がなく、処理水100%で作った米の評価は良好であり、最後には、田植えや稲刈りに参加した園児たちと、市長を招いて収穫米の「試食会」を開催した。一連の内容が地元の新聞やテレビにより報道され、さらにHP、Facebookなどへの掲載により、消化ガス発電に続き、下水道資源利用による下水道事業のイメージアップを図った。(以下、HP等掲載写真)

下水処理水を農業用水に



エントリー事例の特徴 (施策等そのものの特徴ではなく、施策等を発信する広報戦略及びその効果が優れていると考えている点を明記願います)

稲作試験では、他部局である農林水産部によって、準備から栽培全般にわたり指導を受け、多面的な協力を得て、田植え、稲刈りから試食会まで保育園児を交えるなどして、上下水道局内外を巻き込んだ形でイベント要素を高めた。少しでも市民に下水道事業に対する理解を深めることができればと考えて、小さな一つのイベント毎に情報発信による広報を行った。

園児を通じた保護者の中にも、下水道や下水処理水に対しイメージが変わったという声もあった。

付属資料の提出

あり ・ なし (どちらかに○)